

建築概要

- ・床面積：419.251㎡ (126.82坪)
- ・総高：12.435m
- ・耐震構造：柱状改良、格子壁、小屋組トラス構造
- ・建築様式：入母屋造り三向拝付 背面切妻造り招き破風付 和様平三斗組 二重垂木
- ・外／内壁：漆喰塗り仕上げ
- ・建具：アルミサッシ、襖、障子、板戸

設計趣旨

尾張の地に教えを伝える名古屋別院を踏襲

真宗大谷派名古屋別院本堂を踏襲した建築様式。

震災に対する安全性の確保

地盤は柱状改良を行い、小屋組はトラス構造とする。

更に耐震性能が高い格子壁をバランスよく配置し、

柱等の各部材の耐力基準にねばり強さを増加させる。

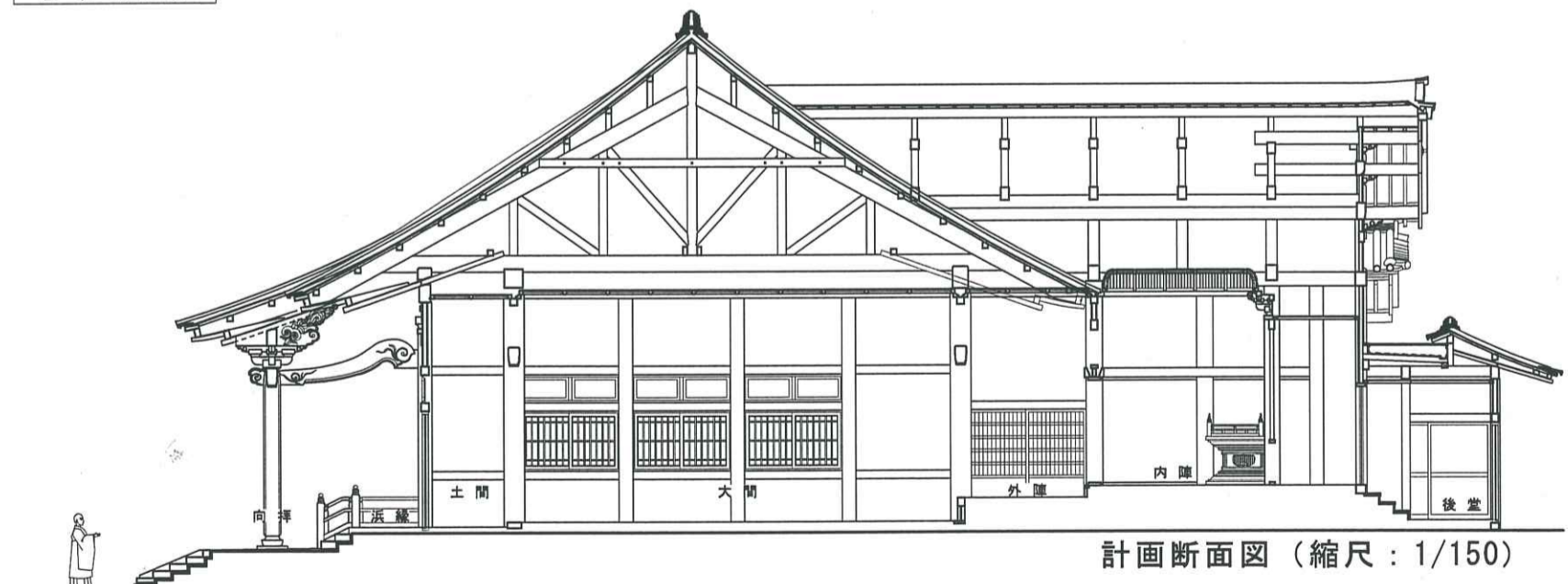
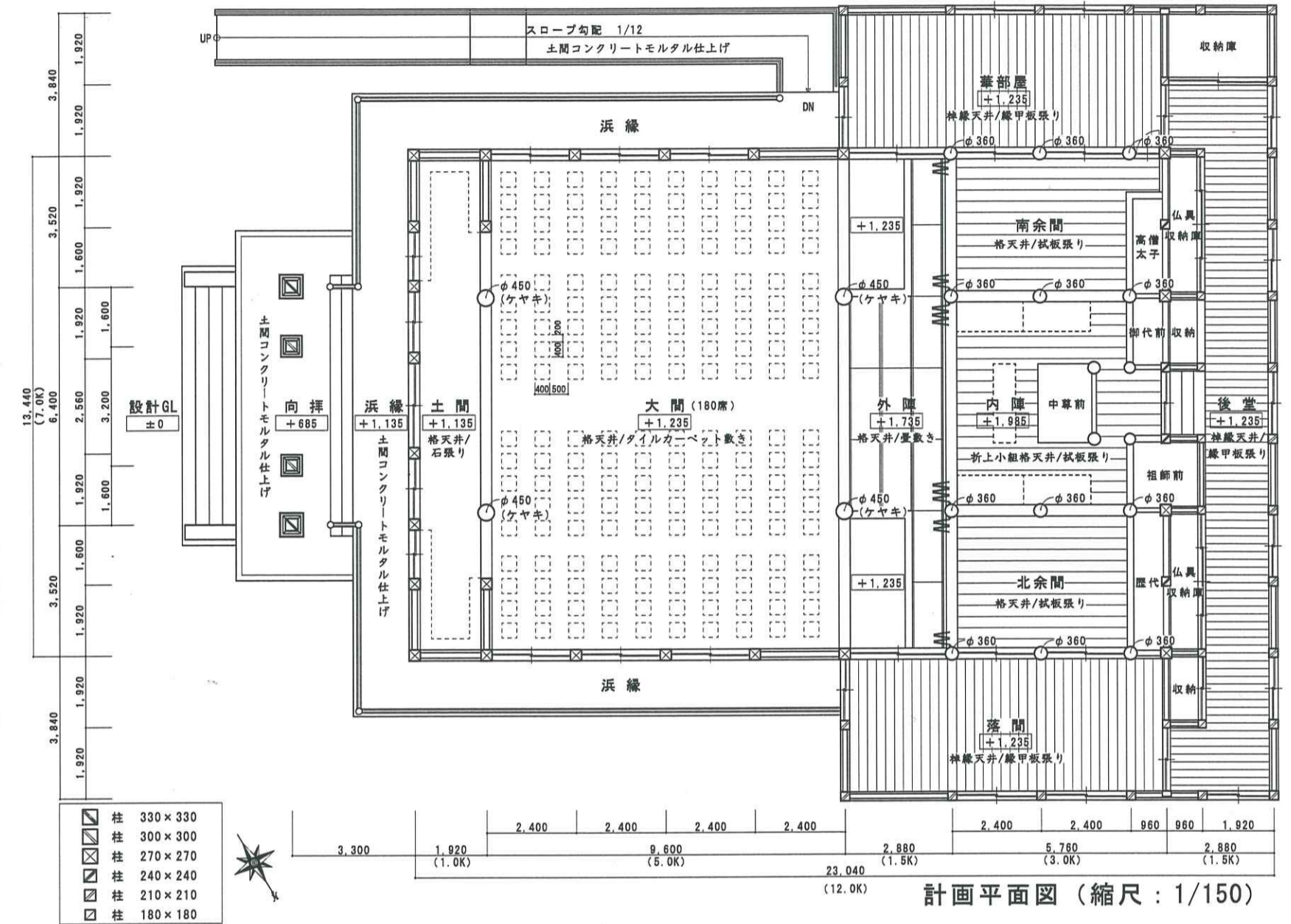
自然素材と木造軸組伝統工法

古来からの木造軸組伝統工法を用い、一つ一つを手作業で行う。

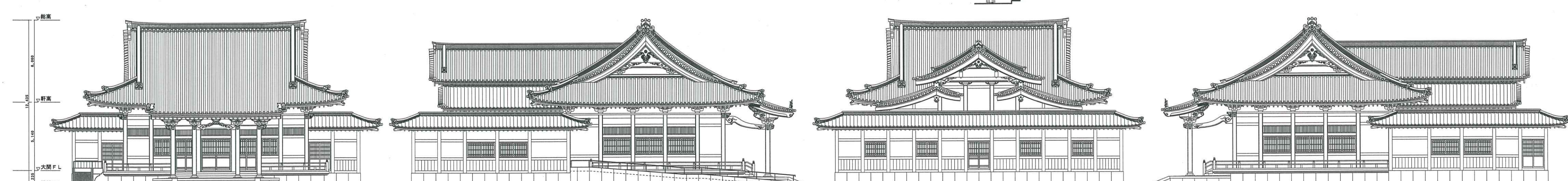
主要軸組材及び造作材は無垢の木材を使用する等、ホルムアルデヒドを始めとする有害化学物質の使用を避け、結露やカビの発生を抑える自然素材を使用する。



外観イメージ図



計画断面図 (縮尺: 1/150)



計画立面図 (縮尺: 1/200)